

ティーチング・ポートフォリオ

筑波学院大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
徐 毅菁

教育の責任

1.何をやっているか

低学年の学生を対象に、経営学入門や経営学概論、いわゆる経営学とは何かという、経営学全般について、アカデミックのアプローチから概観的に説明する。その上、主に2、3年生を対象に、経営行動科学や人的資源管理論、リーダーシップ論といった経営学の特定分野を対象とする、より専門性の高い講義を行うほか、ケーススタディの手法を通じて EC コマースやサブスクなど現在の新興産業を紹介するビジネスマネジメント特論 I ならばにより応用を重要視する経営シミュレーションを担当している。その他、3、4年生を対象に、自身の専門分野である組織行動論（組織における人間行動のメカニズム）をベースに、マイクロ組織論の観点からビジネスマネジメント演習を展開し、ゼミ生の卒業研究を指導している。

2.担当科目

現在（2022 年度現在）の担当科目とその概略は以下のとおりである。

科目名	対象 学年	受講 人数*	授業 形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
経営の基礎/ビジネスマネジメント入門/経営学入門	1-4	27	講義	選択 必修	入門科目
経営シミュレーション②/ビジネスプランニング②	2-4	25	講・演	必修	専門基礎・ビジネスマネジメント
経営学概論/経営概論	2-4	60	講義	必修	専門基礎・ビジネスマネジメント
経営行動科学	2-4	28	講義	選択	専門基礎・ビジネスマネジメント
人的資源管理論	2-4	14	講義	選択	専門基礎・ビジネスマネジメント
リーダーシップ論②	2-4	4	講・演	選択	専門基礎・ビジネスマネジメント
ビジネスマネジメント特論 I	2	36	講・演	選択	専門基礎・ビジネスマネジメント
ビジネスマネジメント演習 D1	3	18	講・演	選択	専門発展・ビジネスマネジメント
ビジネスマネジメント演習 D2	3	16	講・演	選択	専門発展・ビジネスマネジメント
基礎ゼミ 3	2	9	講義	必修	入門科目
基礎ゼミ 4	2	9	講義	必修	入門科目
卒業研究	4	8	演習	必修	専門発展・ビジネスマネジメント

※受講人数は 2022 年度 6 月時点での履修登録者数を示している

教育の理念

私は教育において、終始学生の「課題を発見し、自分で考え、解決する力」の育成に焦点を当て、理論と実践の融合を目指している。そのため、授業に対して具体的に注力する点は以下 3 つである。

①アカデミックの視点からの支援である。領域学である経営学を様々な場面で応用する前に、まず経営学を構成する諸分野の専門知識を体系的に学ぶことが必要不可欠である。そこで、経営の基礎や

経営学概論などの授業を通じ、学生に経営学とは何か、経営学を学ぶことで何ができるかを概観的、且具体的なイメージを示す。さらに、ケーススタディを行うことで理論の理解を深める。

②方法論（資料の調べ方やレポートの書き方、プレゼンテーションのスキルなど）の伝授である。いわゆる社会人力であるそれらの能力は、いずれも数をこなすことが大事だと考えている。そのため、ゼミナールだけでなく、他の授業でもグループ発表やレポート課題などを通じ、学生に練習の場をできるだけ提供する。さらに、タイムリーなフィードバックで確実な成長を目指す。

③タイムリーなデータを使用することである。1つは、地元の中小企業の事例の導入である。講義ではケーススタディのメソッドを利用しているが、その対象は大手企業のみならず、学生の希望先や実際の就職状況を反映し、地元の中小企業も積極的に取り入れている。それだけでなく、市場は常に変動しているものであるように、授業で使う教材は当然前年度と同じものになってはならない。常に時事的な要素を従業に反映するように心がけている。例えば去年はコロナが様々な産業に与える影響を議論したり、今年は大安のもたらす影響並びに製造業のリショアリングに焦点をシフトしたりするなど、実務とのギャップを可能な限り縮小することを目標としている。

教育の方法

・PPTや動画など多種多様な視覚教材の活用

原則、学生の理解を深めるため、座学で行われる講義は必ずPPTを利用して説明する。その際に、専門的な概念をできるだけ図・表などで表現するようにしている。そのうえ、理解を促すために、授業前に講義中に使う予定のPPTを一部抜粋してPDFに転換し、classroomにて公開している。また、学生の興味を引き寄せるために、事例などに関しては雑誌や新聞記事以外、積極的にVTR、例えば企業が公開する宣伝動画やテッド、または経済系のテレビ番組（がっちりマンデー等）などを教材の補足として引用している。

・授業の目的に合わせて適切な授業形態や評価基準の選択

例えば「経営の基礎」等の専門基礎科目の目的はビジネス全般の基礎となる知識の習得であるため、授業自体は講義形式をとり、さらに毎回復習課題を出題し学生の理解度をチェックしている。ほか、中間テストおよび期末テストの実施によって重要な定義や概念への記憶を促している。一方、経営分析の授業ではゼミに近い形をとり、学生を主役にし、できる限り全員に発表の場をもたせらるるようにしている。

・参加型授業

講義型の授業でも、適合にディスカッションの場を設け、学生がただ単に講義を聞くのではなく、自ら考えて、さらにそれを他人に伝えるチャンスを提供するように心がけている。

例えば、特論などの授業では、完全に学生を主体にケースの分析を進めている。その際に、学生の発言を促すために直接授業採点評価に反映する加点制度（回答の正確さ関係なく、1回の発言+5点）を運営している。

また、輪読を行う際に、発表者以外の受講生の参加度を向上させるために、オリジナルな評価シートを導入し、成績評価を学生が行うことによって、違う視点からプレゼンテーションに理解することが期待できる。

上記のほか、Classroom の統計機能を利用することで、クラス全員の意見をリアルタイムで円グラフで示すことができる。従来の挙手式より、特定の学生だけが議論に参加している、もしくはただ乗りの減少をある程度減らすことができたと考えられる。

・迅速かつ的確なフィードバック

復習課題や授業内テストは全て1週間以内に採点して本人に返却し、次回授業の冒頭に履修者全体を対象に解説する。レポート課題に関しては、提出者全員に個別で、レポートの良かった点と改善してほしい点を classroom のコメント機能を利用してフィードバックを行なっている。学生もまた、コメントに異議や疑問を感じる時に、同じくコメント機能で返信することで、場所や時限の制限なく従来の方法よりも気軽に教員とコミュニケーションをとることができた。

・学生に対する個別指導

ゼミでは学術的な指導に加え、定期的に個別面談を行い、学年や出身地に合わせて個々のキャリア形成に関するアドバイスもしている。その際に、常に学生目線で物事を考えるように気を付けながら、一人ひとりの学生の個性や目指したい目標を尊重し、アドバイザーの立場を徹底している。それと同時に、面談で得られた情報は学内、必要に応じて保護者様とも積極的に共有している。

教育の成果 および 今後の目標

詳細は「授業改善報告書」を参照。

参考資料

テッド：<https://www.ted.com>

がっつりマンデー：https://www.mbs.jp/pgm/tbs_gacchiri/

【Google Classroom】

[2022 春 ビジネスマネジメント特論 I \(google.com\)](#)

[2022 春-人的資源管理論 \(google.com\)](#)

[経営概論/経営学概論 \(google.com\)](#) ;

[「経営シミュレーション 2021 春」の授業 \(google.com\)](#)

【Google Drive】

https://drive.google.com/drive/u/2/folders/1NuaSK_bwSEo-r9Qxn9CFwYeWOqOKo5OQ

授業用 PPT (添付ファイルを参照)